

気仙沼市内の巡検を実施しました(2018/07/27-28)

テーマ：気仙沼分室，被害軽減と予測ユニット，実践的防災学

7月27日(金)～28日(土)の2日間，当研究所の「被害予測と軽減ユニット」では，気仙沼市内の巡検を実施しました。当研究所では，自然・社会環境，文化・歴史が異なる地域のニーズに適した支援を実施する新しい研究プロジェクト体制として，既存の部門・分野体制とは別に「プロジェクトエリア・ユニット制」で研究を実施しています。被害予測と軽減ユニットは，リアルタイム観測，データベース，歴史資料など様々な情報・データを融合させ，知に変換して社会に提供する手法を開発し，地域での利活用法を検討するユニットです（ユニット長：今村文彦教授）。

同ユニットでは，以上の目標を達成する上で，現場の実態を把握するためのフィールド調査として今回の巡検を実施しました。巡検には，ユニットメンバーのうち，今村文彦教授，サッパシー・アナワット准教授，門廻充侍助教（以上 災害リスク研究部門），蝦名裕一准教授（人間・社会対応研究部門），佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門），久利美和講師（リーディング大学院），保田真理プロジェクト講師（寄附研究部門），熊谷成一技術補佐員（気仙沼分室）が参加し，中島地区海岸，大谷海岸，旧気仙沼向洋高校（震災遺構），杉ノ下地区（水門（震災遺構），慰霊碑など），南町地区・魚町地区（堤防），鹿折地区（災害公営住宅），魚市場，内ノ脇・幸町（災害公営住宅），朝日町など，復興の過程・状況について情報を得ることができました。巡検の中では，宮城県河川課，気仙沼土木事務所，気仙沼地方振興事務所，気仙沼市役所の皆様に大変お世話になりました。



大谷海岸



魚町地区の膨張（フラップゲート）



旧気仙沼向洋高校（震災遺構）校舎内



気仙沼分室と参加者

（東北メディカル・メガバンク機構 地域支援気仙沼センター内）

文責：佐藤翔輔（情報管理・社会連携部門，気仙沼分室WG長）

写真撮影：熊谷成一（気仙沼分室）